

障害超えた「踊り」とは



22日、静岡文化芸術大で公演

障害の有無を超えた表現の可能性を考えるダンス公演「アカデミックダンスコレクション」が22日午後4時から、浜松市中区の静岡文化芸術大講堂で開かれる。健常者と障害を持つダンサーが舞踊を披露し、トークセッションも行う珍しい形式のイベント。企画した同大の永井聡子教授は「障害を特別視せず、フラット(平ら)に見て感じるきっかけにしてほしい」と話す。

意見交換会も 本社総局でPR

義足のダンサーとして知られる大前光市さんや、車いすダンサーのかんばらけんたさんらプロダンサー5人が出演する。磐田市の現代舞踊作家佐藤典子さんが公演を監修し、佐藤典子舞踊団が「赤い鳥と共に」など日本の現代舞踊の歴史をテーマにした演目を披露する。

トークセッションは「表現の可能性って何？」と題し、出演者らが意見交換する。永井教授と佐藤さんは17日に中区の静岡新聞社・静岡放送浜松総局を訪れ、佐藤さんは「若い世代の皆さんに踊りとは何かを考えてもらえたら」と期待し

静岡文化芸術大でのダンス公演をPRする永井教授(左)と佐藤さん(右)が、浜松市中区の静岡新聞社・静岡放送浜松総局

た。当日は午後3時半開場。チケットは一般千円、高校生以下500円。当日券あり。問い合わせは20日まで永井教授へ電090(7690)8984へ。(浜松総局・高松勝)

た。当日は午後3時半開場。チケットは一般千円、高校生以下500円。当日券あり。問い合わせは20日まで永井教授へ電090(7690)8984へ。(浜松総局・高松勝)